

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立第五中学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

| | | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | 全体 |
|----|----------------|------|------|------|------|------|------|
| 1年 | 前年度結果 偏差値平均 | / | / | / | / | / | / |
| | 本年度結果 偏差値平均 | 48.8 | 46.8 | 49.3 | 49 | 50.5 | 48.8 |
| 2年 | 前年度結果 偏差値平均 | 50.6 | 50.1 | 49.1 | 51.8 | 51.2 | 50.2 |
| | 本年度結果 偏差値平均 | 47.7 | 46.7 | 47.3 | 46.6 | 46.9 | 47.0 |
| 3年 | 前年度結果 偏差値平均 | 48.1 | 48.2 | 47.5 | 48.4 | 48.5 | 47.9 |
| | 本年度結果 偏差値平均 | 48.8 | 48.1 | 45.1 | 46.8 | 46.2 | 46.8 |
| 全体 | 前年度結果 偏差値平均 | 49.2 | 49.6 | 48.3 | 49.6 | 49.8 | 49.0 |
| | 本年度結果 偏差値平均 | 48.4 | 47.2 | 47.2 | 47.5 | 47.9 | 47.6 |

②学習環境分析 Q-U 【1回目】

| | | 1年 | 2年 | 3年 | 全体 |
|------|-------|------|------|------|-------|
| 一次支援 | 人数(人) | 49 | 37 | 47 | 133.0 |
| | 割合(%) | 57 | 40.7 | 46.1 | 47.9 |
| 二次支援 | 人数(人) | 33 | 45 | 44 | 122.0 |
| | 割合(%) | 38.4 | 49.5 | 43.1 | 43.7 |
| 三次支援 | 人数(人) | 4 | 9 | 11 | 24 |
| | 割合(%) | 4.7 | 9.9 | 10.8 | 8.467 |
| 学習意欲 | 学年(点) | 16.7 | 15.9 | 15.9 | 16.2 |
| | 全国(点) | 15.3 | 15.3 | 15.3 | 15.3 |

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

| 教科 | 国語 | 数学 | 英語 |
|----------------|-------------|------------|------------|
| 前年度結果 (対県比) | 69 (100) | 46 (92) | / |
| 本年度結果 (対県比) | 69 (99) | 47 (96) | 38 (88) |

④学習環境分析 Q-U 【2回目】

| | | 1年 | 2年 | 3年 | 全体 |
|------|-------|------|------|------|------|
| 一次支援 | 人数(人) | 46 | 36 | 46 | 128 |
| | 割合(%) | 56.1 | 40.4 | 45.1 | 47.2 |
| 二次支援 | 人数(人) | 32 | 45 | 42 | 119 |
| | 割合(%) | 39 | 50.6 | 41.2 | 43.6 |
| 三次支援 | 人数(人) | 4 | 8 | 14 | 26 |
| | 割合(%) | 4.9 | 9 | 13.7 | 9.2 |
| 学習意欲 | 学年(点) | 16.1 | 15.3 | 15.9 | 15.8 |
| | 全国(点) | 15.3 | 15.3 | 15.3 | 15.3 |

2. 調査から明らかになった課題

| | |
|---|---|
| <p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各教科の領域別で全国比90%未満のもの ・社会 原始から古代の日本(2年生86%)、中世の日本(2年生76%) ・数学 数と式(2年生82%、3年生81%)、図形(3年生87%)、関数(2年生89%、3年生78%) ・理科 身近な物理現象(2年生87%)、身の回りの物質(2年生87%)、電流とその利用(3年生85%)、気象とその変化(3年生87%) ・英語 話すこと(2年生87%)、書くこと(2年生78%、3年生79%) <p>昨年度に90%未満だったものは、数学 数と式(2年生87%)、理科 身の回りの物質(2年生89%)であったため、大幅に増加している。</p> | <p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語は、評価の観点において、知識・技能は県の平均より0.5ポイント上回っている。一方、「情報の扱い方に関する事項」が県の平均より、-5.4ポイントと下回っている。このことから意見や根拠など情報と情報との関係を適切に理解することに課題があると考ええる。また領域の「読むこと」についても県の平均より-4.5ポイントであった。特に問題2三は県の平均より-6.2ポイントであることから「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること」に課題があると考ええる。 ●数学は、県の平均と比較すると思考・判断・表現は0.8ポイント上回っているのに対して、数学的な知識・技能を問う問題の正答率が県の平均より-3.8ポイントであったことから、「基礎的な数学的知識及び活用の習得」に課題がある。領域別で分析すると県の平均より数と式は-3.8ポイント、図形は-4.5ポイント、関数は-1.4ポイント、データの活用は+1.5ポイントであった。このことから、空間における図形の認識や立式しての計算について課題があることや「自然数」や「累積度数」など数学用語を理解できていないと考える。 ●英語は、県の平均と比較して-5ポイントであり、特に「読むこと」の領域は県の平均より-10.9ポイントであることから「読むこと」に関する領域に課題があると考ええる。また、文法事項としては、語順の理解や文構造について理解が不十分であると考ええる。また、全体的に県の平均より無解答率が高い傾向にあり、与えられたものを適切な形に直したり、不足している語を補ったりする問題については県の平均に比べて比較的解答できているが、問題を読み取り適切な内容を選択するなどの回答は県の平均を下回る。 |
| <p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●3年生はQ-Uにおける三次支援を必要とする生徒が11人で、全体の約1割を占めている。 ●学習意欲は全学年とも全国平均を上回っているが、NRTの全体偏差値平均は50を下回っており、学習意欲が学力の定着に結びついていない。 ●「かたさのある学級集団」が最も多く4学級あり、続いて「学級内の規律と人間関係が不安定になっているクラス」が3学級となっている。 | <p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(1年生)「親和的でまとまりのある学級集団」、「規律と人間関係不安定になっている学級集団」と学級によって現状がわかれた。三次支援を必要とする生徒数に変化はなかったが、全体を見ると満足群に移動した生徒が多かった。担任による複数回の個人面談で共感的人間関係を育んだり学年コンテストを通して生徒同士が声をかけ合うことで集団意識が高まったりした。 ●(2年生)1学級は「親和的でまとまりのある学級集団」であるものの別の2学級において「規律と人間関係が不安定になっている」との結果。しかし学校生活意欲総合得点は94%までの生徒が半数、100%満足している生徒も1割おり、満足感をもって学校生活を送れている生徒と2極化している事が分かった。心情面に寄り添った対応を行う必要があると考える。 ●(3年生)3学級ともに「親和的でまとまりのある学級集団」であり、生活・学習支援ともに三次支援を必要とする生徒が0人となった。年度を通じての細やかな生徒指導や家庭連携など取組の成果が現れている。また、二次支援の生徒が半減し、生徒が満足感を持って学校生活を送れている。今後も引き続き丁寧な対応と細やかな生徒指導が必要だと考える。 |

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

| 重点目標 (何を、どの程度達成するか) | 達成のための具体的取組 (どのようにして) | スケジュール | 検証の指標・目標 |
|---|---|---|---|
| <p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ICT機器を積極的に活用した授業づくりに向けた資質能力の向上。 ②全教員で「本質的な問い」の設定を意識した授業を実施。 ③定期試験ごとの「テスト直し」の実施と、レポートやドキュメントによる可視化。 ④教科ごとの「PDCAサイクルシート」を活用した授業改善による課題把握・分析、研究授業、検証、改善。 ⑤家庭学習の量(時間の増)・質の充実。30分未満の生徒数の削減。 ⑥学力の低い生徒に対する積極的な学習支援。 ⑦全国学力・学習状況調査に向けた学習支援対策。 | <ol style="list-style-type: none"> ①モジュール学習で全生徒が毎日ミライシード等に取り組む時間を確保することで、CBの活用と学力向上を目指す取組の実施。 ①CBを活用した研究授業を各教科で行い、全教職員での協議・共有。(取組の可視化) ①各授業ごとに小テスト等を行い(フォームの活用)、基礎学力の定着を図る。 →授業内の小テスト問題の解説や答案の共有などにもICTを活用し、学びを深めることができるようにする。(3年生数学で実施済) ②全教員が研究授業時に単元構想シートの作成に取り組み、「本質的な問い」の設定を意識した授業を実施することで授業改善を図る。 ③全教科で実施し、生徒にレポートやドキュメント等を作成させ、思考力・判断力・表現力等の育成と、成果物に対する事後指導の徹底・評価の還元。 →各教科テスト直しレポート実践の共有と評価基準に関する内容の全体研修の実施をする(9/20に実施済) ④各教科の専門性を生かして学力における課題を「焦点化」し、取り組みを毎時間の授業や家庭学習の中に取り入れて授業改善を図る。また長期休業を活用して現状把握や分析を行い、「PDCAサイクルシート」にまとめて取組事例を全教職員で共有し、効果的な取組は取り入れる。 →NRTや全国学力状況調査の結果からも再度夏休み中に結果を分析し、課題となる部分を2学期の授業内で毎時間取り入れたり、2学期以降の中間・期末試験の問題に取り入れれたりと繰り返し分析評価を行う。(3年生社会で実施済) ①分析し出てきた課題をテスト直しレポートの内容に取り入れて実施(3年生理科で実施済) ④学校経営会議において改善計画を共有し、全教職員に周知。 →学校経営会議だけでなく、全体研修・研究委員会等を活用して更新後は随時、改善計画の共有を行う。 ⑤授業や家庭学習の取組事例を全教職員で共有し、効果的な取組は取り入れる。 ⑥学校組織体制の中に「学力向上部」を創設し、放課後に部活動の時間と並行して全生徒の学力向上に向けた取組の実施。 ⑥「学力向上部」と各学年をタイアップした「サマースクール」(学力補充期間)を実施し、各学年で中間層の学力向上を図る。 ⑦全教職員で通過率の低い問題の傾向を把握するための研修会を実施する。 ⑦学力調査問題を授業時間に設定し、本番同様に実施、解説を行う。 ⑦学力調査問題の通過率の低い問題に対する支援としてMEXCBTを各教科で活用する。 | <ol style="list-style-type: none"> ①4月から実施 ①4月から順次実施(全員) ①各学期1回 ②5月からの1人1研究授業で順次実施(全員) ③各学期1回→第1回目は9/20に実施 ④5月から順次実施→9月から追加実施 ④5月から実施→9月から追加実施 ⑤4月から実施 ⑥4月から実施 ⑥夏休みに実施 ⑦令和5年1月以降で実施→11月以降で実施 ⑦令和5年1月以降で実施→11月以降で実施 ⑦令和5年1月以降で実施→11月以降で実施 | <ol style="list-style-type: none"> ①一人一授業提案 ②1人1授業時に単元構想シートの作成を必須化し、冊子にして全教職員に配布 ③教職員アンケートの肯定的回答率(「振り返り」に関する設問)80%以上 ④定期試験も含めて、学年部・各教科で改善策を検討・実施 また、各教科で子どもの変容がわかるように指導(授業)→実力テスト→分析の流れを構築し、研究主任が集約する。 ⑤生徒アンケート「毎日家庭学習を行う生徒の割合」80%以上 ⑦来年度の全国学力・学習状況調査 |
| <p>【学級・学習集団づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生徒総会や運動会、絆祭等の行事を通して生徒の自主性・主体性を育成する生徒。 ②QUの結果を、講師を含め全教職員で共有する。 ③QUを活用して、全ての生徒と学期に1回以上の教育相談(面談)を行う。 ④全学級で、提出物を期日を守って提出させる取組を通し、最後までやりきらせる達成感と責任感を養う。 ⑤全学級で、生徒が安心・安全に過ごせるよう情報モラル教育を実施。 | <ol style="list-style-type: none"> ①生徒会顧問を中心に、生徒の意向や思いを把握するとともに、実現に向けた指導・支援を行う。 ①全校集会・学年集会を隔週で実施(リモート実施を含む)し、学習の仕方や定期試験に向けた意欲喚起や生活に関する指導の徹底。 ②QUに基づく、SCと各担任とのコンサルテーションの実施。 →QUの結果から、学習に対する3次支援を要する生徒の把握と今後の取り組み(手立て)を考え、全体共有※必要に応じてSCと連携 ②ふれあい教室(校内・校外)と保健室、各担任の密な連携で生徒に寄り添った支援。CBの活用。 ③「第GOノート」を活用した生徒の実態把握と指導、保護者連携。 ③保護者との密な連携や家庭訪問、学期ごとの三者懇談。 ④学力向上部での活動と家庭と連携した試験週間に行う学力補充の実施により、学力向上と学習意欲の喚起。 ⑤生徒指導部と連携したCB使用における全学年統一ルールの運用 | <ol style="list-style-type: none"> ①随時 ②QU結果判明後(2回※1回目は9月中に実施)→9月から追加実施 ③学期に1回(生徒アンケート・面談) ④随時 ⑤随時 | <ol style="list-style-type: none"> ①・②・③生徒アンケート ・学校生活への満足度(90%以上) ・「自分にはよいところがあります。」に対する肯定的な評価(80%以上) ・「主体的な地域活動への参加」についての肯定的評価(80%以上) ②・③QUでの一次支援の数値向上(全学級で1回目以上) ②・③・⑤生徒・保護者情報の一元化(主任・管理職への報・連・相) |

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

| |
|---|
| <p>【今年度の成果と次年度にむけた改善点】</p> <p>○振り返り活動に着目し、R80を意識した授業改善等を行い、「単元構想シート」や学校独自の「PDCAサイクルシート」を活用した研究授業を全教科で行った。全教職員での協議・共有することで、授業力の向上を図ることができた。</p> <p>また、3学期から2学年を対象に数学に特化した補充学習を行い、帯の時間(帯りの短学活の中)で難易度を4段階の中から自己決定させて学習を進めていった。その結果、実力テストに結果が出てきている。この取り組みを来年度にも継続していきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学力向上部の設置で低学力層への学習支援などの働きかけに加えて、長期休業での学力補充期間(サマースクール等)を設けて行ったが、全体的な数値の向上につながらなかった。 <p>引き続き、来年度も学力向上の取組を行い、指導を行う体制を構築する。</p> |
|---|

5. 次年度学力調査の目標値(R6年度)

学力定着分析 NRT 偏差値平均

| | | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | 全体 |
|----------|--------------|----|----|----|----|----|------|
| (現1年)新2年 | 目標値 偏差値平均 | 50 | 48 | 50 | 50 | 51 | 49.8 |
| (現2年)新3年 | 目標値 偏差値平均 | 49 | 48 | 49 | 48 | 48 | 48.4 |

全国学力・学習状況調査 正答率平均

| 教科 | 国語 | 数学 |
|--------------|-------------|------------|
| 目標値 (対県比) | 70 (100) | 48 (94) |